

唐津市立佐志小学校研究主題

# 思いや考えを認め合い、高め合う児童の育成

～子どもの学ぶ意欲を引き出す国語科指導方法の工夫～

## 1 主題設定の理由

本校は、令和2年度から唐津市の学力向上指定校として、「思いや考えを認め合い、高め合う児童の育成」という研究テーマのもと、伝え合う活動に主眼を置いた国語科の研究を進めてきた。2か年の取り組みを通して、ほとんどの児童が、伝え合うことで「わからないことがわかった」「考えの違いに気づいた」「自分の考えがかわった」と、伝え合う活動の有用性を実感できている。更に、「もっとみんなにわかりやすく意見を言いたい。」「話し合いをスムーズに進めたい。」と、伝え合う活動を高めていきたいと考えている児童が増えてきた。

しかし、伝え合うことには価値を感じているものの、伝え合う目的や必然性をしっかりと理解して、伝え合う活動を進めている児童が少ないように感じる。また、単元全体を通してどのような力が付くのかを意識しながら学習を進めたり、どんな力が付いたのかを実感したりしている児童も少ないと言える。

そこで、今年度は「さし人学習 ～**さ**あやってみよう・**し**っかり考えよう・**ひ**とから学ぼう・**と**いなおそう～」や「ひとみタイム」といったPW・GW・CWを意識した学習の流れを大切に授業づくりや、児童の実態に応じたワークシートの工夫や交流の工夫など、昨年度までの取り組みを継続していく。さらに、児童が自ら「考えたい、学びたい」と思い、言語活動を楽しみながら、粘り強く学び続けられるような単元作りを目指し、研究を進めていきたい。

## 2 研究の目標

学ぶ意欲を持ち続けながら、自分の考えをもち、他者とのかかわりの中で問題を解決することを通して、児童が自らの高まりを実感することができるような国語科指導方法を探る。

## 3 研究の仮説

国語科の授業実践において、次のような手立てを取れば、ねらいを達成し、その解決に向けて学習意欲を継続させながら、互いに思いや考えを認め合い、高め合う児童の育成ができるであろう。

- (1) 学ぶ意欲を持ち続ける学習課題と言語活動の工夫
- (2) 個人思考の場と主体的・協働的な伝え合う活動の充実
- (3) 振り返りによる学びの自覚化

#### 4 研究内容与方法

(1) 学ぶ意欲を持ち続ける学習課題と言語活動の工夫

※ねらい達成につながり、児童が目的意識や話し合う必然性をもつことのできるような課題の設定

※児童が「考えたい、学びたい」と思えるような課題意識を高める工夫

(2) 個人思考の場と主体的・協働的な伝え合う活動の充実

※自力解決から伝え合う活動へとつながるワークシート、発問、掲示物の工夫

※学びを広げ深めるための教師による適切なコーディネート

(問い返しや板書の工夫、ツールの活用)

(3) 振り返りによる学びの自覚化

※学びを自覚できる効果的な振り返りのポイント設定

#### 5 年間計画

月	全体会
4/13 (水)	・校内研究① 今年度の校内研究計画提示、共通実践事項
5/25 (水)	・校内研究② 全校研授業者、公開授業者決定及びグループ研の日時検討
6/8 (水)	・校内研究③ 提案授業(全校研授業1) 小中連携
7/13 (水)	・校内研究④ 指導案検討会
8/3 (水)	・研究実績発表
8	・校内研究⑤ 指導案検討会 学調分析
8/25 (木)	・校内研究⑥ 佐志校区・浜玉校区合同研修会(樺山先生講演会)
9/21 (水)	・校内研究⑥ 全校研授業2
10/20	・校内研究⑦ 全校研授業3
11	・校内研究⑧ 公開授業
12/14 (水)	・校内研究⑨ 研究のまとめ提案 学調分析
1/18 (水)	・校内研究⑩ 研究のまとめ作成 次年度の校内研におけるアンケートの実施
2/15 (水)	・校内研究⑪ 研究のまとめ仕上げ・製本 今年度の成果と課題の確認 次年度の校内研の検討
3	・校内研⑫ 次年度にむけて、校内研の取り組みについて

##### ①研究グループ

低学年・中学年・高学年の3つの学年グループを編成し、級外の教師も各グループに所属する。研究授業後の話し合いは、学年グループで役割分担を行い進める。

##### ②授業について

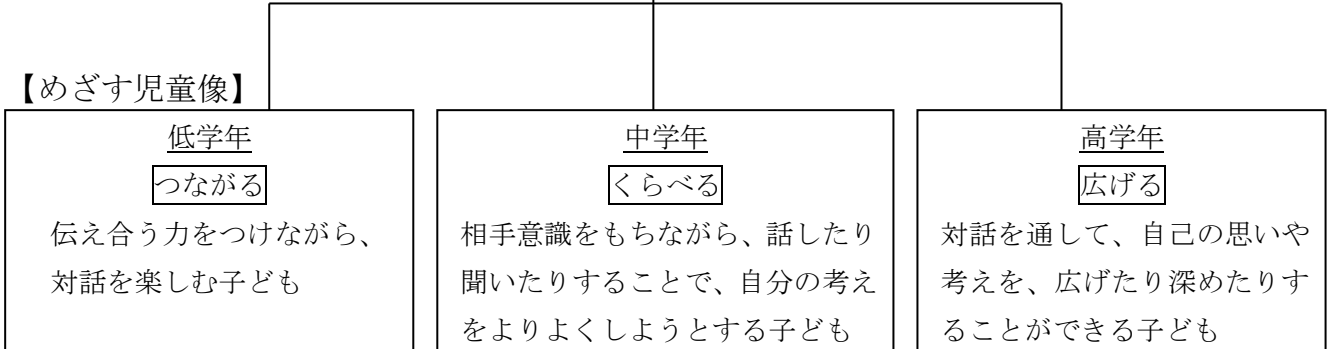
全校授業者、公開授業者は学年グループより1名。それ以外はグループ授業研を行う。全校研究授業3回(提案授業を含む)、公開授業を3回行う。

##### ③授業実践の記録

低・中・高学年で役割分担を行い、授業実践の過程や記録を残す。

学校教育目標 「自分も他者も大切にするさしっ子の育成」  
 めざす子どもの姿 「気づき、考え、実行する」子ども

**研究主題** 「思いや考えを認め合い、高め合う児童の育成」  
 ～子どもの学ぶ意欲を引き出す国語科指導方法の工夫～  
**研究目標** 自分の考えをもち、他者とのかかわりの中で問題を解決することを通して、児童が自らの高まりを実感することができるような国語科指導方法を探る。



**【組織】**  
 研究推進委員会（校長、教頭、教務、研究主任、低中高1名）

まなび部（研究部）	前川、坂口、井本
（学習部）	藤田、門川、峰

<b>【低学年グループ】</b> 藤田、榎、前川 横山、増本、峰、山本	<b>【中学年グループ】</b> 山田、麻生、松本 井本、坂口、土井	<b>【高学年グループ】</b> 鶴田、門川、加山 谷口、池田、田川
公開授業者 5月25日決定	公開授業者 5月25日決定	公開授業者 5月25日決定
全校研授業者 5月25日決定	全校研授業者 5月25日決定	全校研授業者 5月25日決定

※講師招聘  
 西部教育事務所北部支所指導主任 森田祐香先生